

『真理』の十訓

昔の電通鬼の十訓を参考にしました

- 一、『真理』を弘める事は自分から「創る」べきで与えられるべきでない
- 二、『真理』を弘めるとは先手先手と「働き掛け」ていくことで受け身でやるものでない
- 三、『真理』を弘めるには 大きな立場で取り組み 小さな立場では己を小さくする
- 四、『難しい相手』を狙え そしてこれを教化し遂げるところが『真理』に適う
- 五、取り組んだら「放すな」何があっても放すな 目的完遂までは・・・
- 六、周囲を「引きずり回せ」引きずられるのと引きずられるのは永い間に天地の開きができる
- 七、「計画を持つ」長期の計画を持っておれば忍耐と工夫とそして正しい努力と希望が生まれる
- 八、「自信を持つ」自信がないから君の話には迫力も粘りもそして厚みすらない
- 九、頭は常に「全回転」八方に気を配って一分の隙もあってはならない
『神理』を弘めるとはそのようなものだ
- 十、「摩擦を恐れるな」摩擦は進歩の母 積極の肥料だ でないと君は『神理』から取り残される